

学校法人 了徳寺学園 柔道部新聞

渡邊勇人が圧倒的な強さで初優勝を飾る！



8月27・28日に兵庫県尼崎市ベイコム総合体育館にて第46回全日本実業柔道個人選手権大会が開催され本学園からは男女合わせて9名の選手が出場しました。

この大会は11月12～13日に千葉ポートアリーナで開催される講道館杯全日本体重別選手権大会出場資格決定戦でもあり、講道館杯全日本体重別選手権出場資格のないものにとっては是が非でも勝利して出場資格を獲得したい大会です。

結果は優勝者1名、準優勝者2名、3位2名となり、渡邊勇人が圧倒的な強さで初優勝を飾りました。また講道館杯全日本体重別選手権出場資格のなかった西山雄希、六郷雄平、角田夏実が優勝を逃したものの講道館杯全日本体重別選手権出場資格を獲得しました。

残念ながら結果を残せず道館杯全日本体重別選手権大会出場資格を逃したものもいますが、この悔しさをバネにしっかり課題を克服させて次の大会に向けて準備させたいと思います。



100kg級 阪本 健介 : 3回戦敗退

坂本は初戦、渡辺（日本エースサポート）と対戦しました。

序盤お互いに攻め手がなく両者指導が与えられます。その後積極的に攻め込み、相手に組み合わない指導、場外指導が二つ与えられ反則勝ちを収めました。

2回戦は川波（九州電力）と対戦し、序盤より積極的に攻め、相手に指導が与えられます。その後さらに相手に掛け逃げの指導が与えられ、優勢勝ちを収めました。

3回戦は小川（新日本製鉄）と対戦し試合開始直後、組み際の太外刈を受けてしまい、有効を取られます。ポイントを取られた後、阪本が組手で圧倒し相手が潰れます。その際、相手選手が阪本の

下穿きをつかんで防御しましたが、反則負けとはならず、そのまま試合続行。その後も攻め続け、指導3まで相手に与えられますが、試合が終わり優勢負け。後味の悪い敗戦となりました。

1回戦	坂本 健介	○	反則勝 (指導 4)		渡辺 (日本エースサポート)
2回戦	〃	○	優勢勝 (指導 2)		川波 (九州電力)
3回戦	〃		優勢負 (大外刈・有効)	○	小川 (新日本製鉄)

63kg 級 西川 真帆 : 3回戦敗退

西川は2回戦、池田(ベネシード)と対戦し、序盤、組み合わない両者に指導が与えられます。その後は西川のペースで試合が進み、中盤に西川が大内刈をかけて追っていき、一本勝ちで3回戦に進みます。

3回戦は太田(自衛隊体育学校)と対戦し、序盤、お互いの技を出し合います。中盤、一瞬組み際に相手の得意の形を許し、不用意に内股を受けてしまい一本負けを喫してしまいます。

調子は良かっただけに悔やまれる試合となりました。

2回戦	西川 真帆	○	一本勝 (大内刈)		池田(ベネシード)
3回戦	〃		一本負 (内股)	○	太田(自衛隊体育学校)



70kg 級 ヌンイラ 華蓮 : 3位

ヌンイラは初戦、森山(JR九州)と対戦し序盤からヌンイラのペースで試合が展開されます。中盤に、相手が内股に来たところ反対側に返し有効を奪います。そのまま寝技につなげ、崩袈裟固で抑え込み、一本勝ちで初戦を突破します。

2回戦は新井(三井住友海上火災)と対戦し、序盤、組み手争いが続きお互いに足技の攻防が続きます。中盤にヌンイラ指導があたえられますが、終盤にかけて徐々にヌンイラのペースになり、相手に指導が与えられポイントで並びます。そのままゴールデンスコアに突入しますがヌンイラは攻めの姿勢を崩さず、ゴールデンスコア2分過ぎに、相手が技に入り潰れたところすかさず寝技に移行し、袈裟固で抑え込んで一本勝ちを果たします。

準決勝は大野(コマツ)と対戦し、序盤、組み手争いが続きお互いになかなか技に入れず、両者に指導が与えられます。中盤、相手に技をしかけられるも凌ぎます。しかしポイントこそ取られなかったもののそのまま寝技に移行されてしまい、崩上四方固で抑え込まれ一本負けを喫してしまいます。優勝は成りませんでした。復帰後徐々に力を出せてきているので、今後に期待したいと思います。

1回戦	ヌンイラ 華蓮	○	一本勝 (崩袈裟固)		森山(JR九州)
2回戦	〃	○	一本勝 (GS・袈裟固)		新井(三井住友海上火災)
準決勝	〃		一本負 (崩上四方固)	○	大野(コマツ)

60 kg級 石川 裕紀 : 2回戦敗退

石川は初戦、大野(東レ名古屋)と対戦し、試合序盤に巴投から腕挫足固めによる一本勝で2回戦に進みます。2回戦は柴田(大牟田高校教)と対戦し、自ら掛けた隅落が自爆したところを相手のポイントとみなされて技有を先行され、その後有効を取り返すも一歩及ばず、上位進出はなりませんでした。

1回戦	石川 裕紀	○	一本勝 (腕挫足固)		大野(東レ名古屋)
2回戦	〃		優勢負 (隅落・技有)	○	柴田(大牟田高校教)

66 kg級 六郷 雄平 : 3位

六郷は初戦である2回戦を不戦勝で勝ち上がります。続く3回戦は木下(赤穂 YAWARA クラブ)と対戦し内股で一本勝ちし、順調な滑り出しを見せます。次に4回戦では清水(パーク 24)と対戦し、常に組手で優位にたち、試合をコントロールします。試合後半に相手が出てきたところをうまく支釣込足で合わせ、技有を奪います。終盤に指導を1つ受けますがそのまま逃げ切り、準々決勝に駒を進めます。準々決勝では徳田(帝京科学大クラブ)と対戦し、講道館杯の出場権をかけたプレッシャーのかかる試合でしたが開始すぐに相手が内股に来たところを内股透で切り替えし、一本勝ちをおさめ講道館杯出場権を獲得してくれました。準決勝戦では怪我の影響により棄権となりましたが、前週の全国柔整大会で負った膝の怪我をおしての強行出場となった六郷ですが、痛みに耐えながらよく勝ち上がり、自らの手で講道館杯の出場権を確保しました。まずはしっかりと怪我を治し、講道館杯に向けて準備させたいと思います。

2回戦	六郷 雄平	○	不戦勝		城後(大阪ガス)
3回戦	〃	○	一本勝(内股)		木下(赤穂 YAWARA クラブ)
4回戦	〃	○	優勢勝(有効:浮技)		清水(パーク 24)
準々決勝	〃	○	一本勝(内股透)		徳田(帝京科学大クラブ)
準決勝	〃		棄権負	○	高市(旭化成)



73 kg級 西山 雄希 : 2位

初戦西山は高瀬(日柔整請求サービス連盟)と戦います。常に試合をコントロールし序盤に支釣込足で技ありを奪い、その後中盤に相手の大外刈を返して一本勝ちで2回戦に進みます。2回戦では丸山(東芝)と対戦し相手の厳しい組手に苦戦しますが、常に先に技をだし消極的な相手に対し2度の指導が与えられ優勢勝ちで次戦に進みます。3回戦では茅野(センコー)と対戦します。この試合でも先に攻め、指導2差で相手を退けます。4回戦での鐘井(福岡市消防局)戦でも変形の相手に苦戦しながらも、指導1差で準々決勝に駒を進めます。次の準々決勝戦では三井(日本エスポート)と対戦し、担ぎ技を中心に攻めてくる相手に対し西山は足技で応戦します。試合終盤に差しかかったところで西山の隅落が決まり、これが有効ポイントとみなされそのままリードを守りきり、準決勝戦に進みます。準決勝戦では前野(旭化成)と対戦します。

試合はお互い厳しいブロックを勝ち上がってきた者同士による、熾烈な戦いになりました。前野が肩車、内股で攻めれば西山も内股、大内で応戦するという手に汗握る一戦となりましたが、序盤に相手に与えられた場外指導を守り抜き、西山の優勢勝ちとなりました。決勝戦では岩渕(センコー)と対戦します。決勝では前半受けた指導を挽回すべく、後半は西山ペースで進みますが、審判の宣告はなく、悔しさの残る惜敗となりました。

しぶとく接戦をものにするようになってきているので、持ち前の切れの良い技に磨きをかけて、講道館杯に臨ませたいと思います。

1 回戦	西山 雄希	○	一本勝(大外返)		高瀬(日柔整請求サービス連盟)
2 回戦	〃	○	優勢勝 (指導 2)		丸山(東芝)
3 回戦	〃	○	優勢勝 (指導 1)		茅野(センコー)
4 回戦	〃	○	優勢勝 (指導 1)		鐘井(福岡市消防局)
準々決勝	〃	○	優勢勝 (隅落・有効)		三井(日本エースサポート)
準決勝	〃	○	優勢勝 (指導 1)		前野(旭化成)
決勝	〃		優勢勝 (指導 1)	○	岩渕(センコー)

73 kg級 太田 慶一 : 4 回戦敗退

太田は2回戦から登場し、香川(豊田自動織機)と対戦します。常に試合をコントロールし、試合中盤で谷落としによる一本勝ちで3回戦に進みます。3回戦では吉原(日本生命保険)と対戦しますが序盤から太田ペースで試合が進み、試合中盤に内股による一本勝ちで4回戦に進みます。4回戦では本間(ALSOK)と対戦しました。同じ東海大学出身の対決ということもあり、序盤から激しい組手争いが展開されますが太田は相手の釣り手で背中を持ってくる変形の組手に苦しみます。中盤に相手の技を受けたところで太田に指導が与えられます。その後先に先にと技を仕掛け、何度かポイントになりそうな場面もありましたが、相手も必死になって腹ばいで逃れます。その後も挽回すべく前へ前へと出ますが、相手の変形の組手に阻まれ試合終了のブザーになってしまい同門対決は本間(ALSOK)に軍配があがりました。後半は太田主導の試合ただけに悔やまれる敗退となりましたが、しっかりと課題を克服し、講道館杯ではリベンジしてほしいと思います。

2 回戦	太田 慶一	○	一本勝(谷落)		香川(豊田自動織機)
3 回戦	〃	○	一本勝 (内股)		吉原(日本生命保険)
準決勝	〃		優勢負(指導 1)	○	本間(ALSOK)

73 kg級 下山 徳大 : 準々決勝敗退

下山は2回戦からの登場となり、北(アールはっとり鍼灸整骨院)と対戦します。序盤から相手の厳しい組手に攻めあぐねますが徐々に下山のペースとなり、指導 2 差で勝利をおさめました。現在、了徳寺系列の上青木整形外科に勤務する傍ら休日を利用して柔道の練習に励む下山にとって、他の学園柔道部員と比べ練習量に不安を抱えており、接戦をものにしたものの体力を温存しておきたい下山にとっては痛い出だしとなりました。3回戦では武末(東芝)と対戦します。相手のトリッキーな柔道に苦戦しながらも試合中盤に放った袖釣込腰が技となり、その後も攻め続け後半バテの様子を見せますがそのまま押し切り、勝利を勝ち取りました。4回戦では江田(福岡医健専門学校)と対戦します。4回戦では下山らしい切れ味鋭い技で一本勝ちをおさめ準々決勝に駒を進めます。準々決勝では前野(旭化成)と対戦します。序盤相手の偽装攻撃による指

導でポイントをリードしますが本日、4 試合目ということもあり徐々に疲労の色が見え始めます。試合中盤に相手に抑え込まれますが何とか足を絡み審判の「待て」がかかります。しかし、その直後、場外際で相手の内股を受けてしまい、技有を奪われてしまいます。その後も挽回すべく前に出ますが力尽きて相手に抑え込まれてしまい、敗退してしまいました。これからも仕事と柔道を両立して「働く柔道家に」夢と希望を与えてほしいと思います。

2 回戦	下山 徳大	○	優勢勝 (指導 2)		北(アールはっとり鍼灸整骨院)
3 回戦	〃	○	優勢勝 (袖釣込腰・技有)		武末(東芝)
4 回戦	〃	○	一本勝 (体落)		江田(福岡医健専門学校)
準々決勝	〃		一本負 (崩れ袈裟固)	○	前野(旭化成)

81 kg級 渡邊 勇人 : 優勝



怪我からの本格復帰となった渡邊は、2 回戦からの登場となり、茂木(井野整形外科)と対戦します。袖釣込腰と背負投による合技で 3 回戦に進みます。3 回戦は横尾(ともえ産業情報柔道クラブ)に対し開始早々の背負投による技有を奪い、そのまま寝技に移行し一本勝ちで 4 回戦に進みます。次に三浦(日本エースポート)と対戦し、中盤に逆の一本背負いで相手を一蹴し一本勝ちで次戦に進みます。準々決勝では小林(パーク 24)と対戦し、開始早々、場外際の谷落で有効を奪います。その後も常に試合をコントロールしてそのまま押し切り、準決勝に進みます。準決勝ではディフェンディングチャンピオンの海老(旭化成)と対戦します。東海大学の先輩

後輩対決ということと実力が拮抗していることから接戦が予想されましたが蓋を開けてみると開始早々の渡邊の背負投げでの一本勝ちというあっけない試合となりました。決勝戦では川上(國學院大學職員)と対戦しますが準決勝の勢いそのままに序盤から試合を支配し、試合中盤に放った背負投が見事に決まって一本勝ちをおさめることができました。決勝で決まった会心の背負投は形のように美しく、会場の観客も舌を巻くほど完璧なものでした。

復帰となった渡邊は、強豪を寄せ付けず、豪快な一本勝ちで勝ち上がり、見事初優勝を飾りました。この調子で、まずは講道館杯を再度制覇し、世界に向けて勝負できるよう準備させたいと思います。

2 回戦	渡邊 勇人	○	一本勝(合技)		茂木(井野整形外科)
3 回戦	〃	○	一本勝 (合技)		横尾(ともえ産業情報柔道クラブ)
4 回戦	〃	○	一本勝 (一本背負投)		三浦(日本エースポート)
準々決勝	〃	○	優勢勝 (隅落・有効)		小林(パーク 24)
準決勝	〃	○	一本勝 (指導 3-1)		海老(旭化成)
決勝	〃	○	一本勝 (体落)		川上(國學院大學職員)

81 kg級 重松 賢太郎 : 2回戦敗退

2回戦から登場した重松は高橋(センコー)と対戦します。先に指導が相手に与えられ、重松ペースで進んでいましたが、一瞬頭が下がったところにタイミングよく相手の内股がきまり、そのまま寝技で固められて初戦敗退に終わりました。しっかり合宿もこなし準備してきただけに悔やまれる試合となりました。

見つかった課題の克服に取り組み、次に繋げてほしいと思います。

2回戦	重松 賢太郎		一本負(崩袈裟固)	○	茂木(井野整形外科)
-----	--------	--	-----------	---	------------

52 kg級 角田 夏実 : 2位



1回戦、角田は石田(米田柔整専門学校)と対戦します。序盤から先に攻め、相手に1つ目の指導が与えられます。その後も攻め続け中盤に相手に2つ目の指導が与えられ、終始試合をコントロールします。終盤に巴投からの腕挫十字固が極まり、次戦に進みます。2回戦は土肥(セントラル警備保障)と対戦します。開始早々に隅落で有効を奪い、そのまま寝技に移行して抑え込み一本勝ちをおさめます。準々決勝では金田(VILLAGE)と対戦します。序盤から担ぎ技、巴投を軸に試合を展開し、試合中盤に相手に指導が与えられます。しかし終盤に角田が掛けた巴投が偽装攻撃とみなされ、指導をもらいます。その直後、組み際にもつれたところを大外刈で合わせ一本勝ちをおさめます。準決勝は谷本(ALSOK)と対戦します。お互い袖を絞りあいながら、技を出し合います。中盤組み際に

掛けた一本背負いが有効になり、リードを奪います。その後も挽回しようとして前に出てくる相手の隙を突いた巴投で有効を追加します。その後も巴投で攻めますが偽装攻撃とみなされ指導を2つ受けてしまうものの、何とかしのぎ切って決勝に駒を進めました。決勝では橋本(コマツ)と対戦します。序盤から激しい組手からの一進一退の攻防を繰り返していましたが、試合中盤にもつれたところを返され、そのまま抑え込まれてしまい、一本負けを喫してしまいました。優勝にあと一步届かなかったものの、しっかりとした技を持っており、寝技にもよいものがあるので、講道館杯を目指してしっかりと強化していきたいと思います。

1回戦	角田 夏実	○	一本勝 (腕挫十字固)		石田(米田柔整専門学校)
2回戦	〃	○	一本勝 (一本背負投)		土肥(セントラル警備保障)
準々決勝	〃	○	一本勝 (大外刈)		金田(VILLAGE)
準決勝	〃	○	優勢勝 (一本背負投・有効)		谷本(ALSOK)
決勝	〃		一本負 (合技)	○	橋本(コマツ)